

# 元気な子ども！

夏が終わり、長岡小は前期の授業の仕上げとなっています。

朝夕寒くなり風邪をひいたり、ぜんそく・アレルギー反応を起こしたりしやすい季節になりました。1・6年のあるクラスで3～5人の欠席が見られています。体調チェックは、毎朝こまめにおこなってくださるようお願いいたします。元気に登校できるようにしましょう。

また、シルバーウィーク後は、保護者の方と個人面談が予定されています。ご家庭では、お子様の学校での様子などをときどき聞いてくださり、励ましながら支えてくださるようお願いいたします。

## こんなとき、どうします？

### ○ころんで、きずがきたないとき

外遊びをしてころび、ケガをしました。「すりきず」ですが、たくさんの泥や砂がついています。さあ、どのような手当てをしたらよいのでしょうか。



泥や砂にはたくさんの細菌（ばい菌）がついています。傷口から細菌が入ると、すぐに血液の中の白血球と細菌の戦いが始まり、白血球が細菌を食べます。でも、細菌の数が多すぎてなかなか勝つことができません。細菌のいきおいが強いと、戦いが終わって死んだ白血球がドロドロした液になります。これが**ウミ（膿）**です。ウミがたまると傷が治りにくくなります。傷が深い場合は、細菌がからだ中に広がることもあるので、特に注意してください。赤くはれて炎症（化膿）することもあります。

### 手当ての方法

1. **泥や砂を水できれいに洗い流す**・・・水道水で十分に洗ってください。
  - \* 傷が浅い場合はガーゼや脱脂綿で水をふきとって、傷口を乾かします。
  - \* 傷がジクジクしている場合は、傷口を5～7日くらい閉鎖しておく専用の絆創膏を使用してもよいと思います。
2. 消毒液・・・滅菌されたガーゼや脱脂綿を使ってつけます。
  - \* 皮膚以外にはつけないように注意してください。
3. 化膿した場合は、医療機関に受診してもよいでしょう。

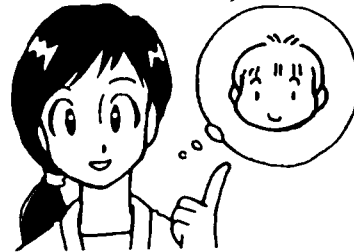
### 注意

◎同じ絆創膏を一日中張っておきません。ぬれたら取り替えます。

◎ **かさぶた**をはがさないようにします。直りが悪くなり、ケロイドになりやすくなります。

# 子どもの けがを防ぐ ⑥つの ポイント

大人が予想もしない行動をするのが、子どもです。けがや事故を防ぐには「大人の常識」ではなく、「子どもの目線」で危険を考えることが大切です。

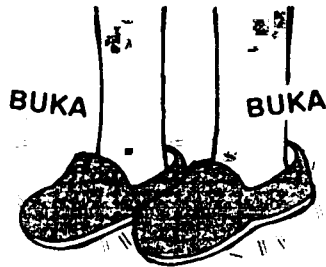


## ① 服装



洋服についている飾りやひもが遊具に引っかかったり、足で踏んだりすると、大けがの原因に。

## ② くつ



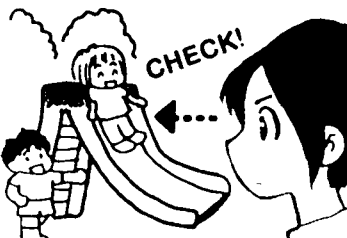
大きすぎる靴は脱げやすいので、つまずいたり、転んだりする原因に。

## ③ つめ



つめが伸びていると、お友だちにけがをさせたり、つめが折れて痛い思いをすることも。

## ④ 目



遊ぶ場所や遊具に危険がないか、危険な遊びをしていないか、見て確認し、遊んでいる間は目を離さないようにします。

## ⑤ 手



横断歩道を渡るときや、駐車場・交通量の多いところを歩くときには、必ず手をつなぎ、大人が車道側を歩くようにしましょう。

## ⑥ 声



危険な場面では、なぜ危ないかを説明し、危険な場所や行動について、くり返し教えましょう。